

令和7年度 第3回知立市地域福祉計画策定委員会 会議録

令和8年3月25日(水)

午後2時00分

知立市役所 3階 第2・3会議室

1. 出席者

(出席者) 10名

◎高橋委員、柴田委員、谷田委員、神谷委員、永井委員、豊田委員、三浦委員、  
蔭山委員、伊藤委員、村松委員

◎事務局 福祉課(係長、主事、主事補)

(欠席者) 1名(甲斐委員)

2. 議題

(1) 各課ヒアリング結果について

(2) 基本目標について

【質問】

(1) 各課ヒアリング結果について

(蔭山会長)

まずは事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

第3次知立市地域福祉・地域福祉活動計画を作成した際の中間評価をもとに令和7年度での取組、それに伴う評価や課題、令和8年度以降の方向性について確認を行った。

包括的な切れ目のない支援を行うことを重視するという部分がヒアリング結果からみることができた。

(蔭山会長)

これらの結果から各課がどのように評価しているかが分かる。社協も回答しているという事でよかったか。

(高橋委員)

社協も回答しております。

(2) 基本目標について

(蔭山会長)

まずは事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

事前に郵送したものについて説明させてもらう。第3次計画の際の基本目標、今までに提示した市民アンケートや事業所ヒアリング、中間評価等をもとに事務局で作成した第4次計画の基本目標の案と変更点について理由を記載したものを送付させていただいた。また、本日の追加資料として変更する際に用いた資料を抜粋したもの、地域福祉計画について定められている社会福祉法の条文を配付させていただいた。

何を第4次の基本目標、柱として取り扱うかという点で協議できればと思う。

変更した点について事務局より改めて説明させていただく。

現在の3つの基本目標。

まず、基本目標1「地域福祉を育む意識と参加の促進」について、今現在ボランティアをしていない人にボランティアをしたいかというアンケートを行った結果、機会があれば参加したいという意見が多かった。きっかけとなる一歩を設けられるように、「参加の促進」という文言を追加した。

基本目標2「みんなで支えあう地域づくり」について、大きな変更はなし。第4次より、「居場所」という文言を追加。地域のつながりの希薄化についてのアンケートより、地域のつながりが必要と思うという人が90%いることが分かった。地域の皆が出会う場として居場所・イベントを重視。何をするわけでもなく、いろんな人と出会える場という意味合いで追加した。

基本目標3「必要な支援につながる仕組みづくり」について、大きな変更はなし。「網羅的・総合的」という点を追加。事業所ヒアリングの結果、他機関に協力を得られない、どこも主担当となれないという現状が把握できた。制度のはざまに対して行政として総合的に受け入れられる体制をとるという点から包括的な要素を追加した。「誰もが孤立しない地域」については、国の孤立対策が令和6年4月1日から開始しているので追加した。

基本目標は重点取組につながるため、包括的な支援、複雑化している8050、ヤングケアラー、孤立等を強調した。

施策体系について、「1-3 地域活動やボランティア活動の参加促進」を基本目標2から基本目標1に移動、参加について追加した。

「2-2 地域における交流・居場所づくりの推進」では「居場所」という言葉を追加。

「3-2 生活課題を抱える人への包括的支援」は、「福祉サービスの充実」から「包括的な支援」に変更。

「3-4 社会参加への支援」は「自立」という言葉を削除。「孤独孤立」もここに追加する予定である。

地域福祉計画は上位計画であり、他の計画にも波及する。

また、市町村地域福祉計画は社会福祉法に規定されている。「次に掲げる事項を定める」とあるので、参考にさせていただければと思う。

(高橋委員)

基本目標3の施策4、「自立」をとったことについて。自立は大事ではないか。

自立は自分の力で動くという意味と思われるが、福祉の場では違う。全社協の村木氏の講演から、自立は高齢者や困窮者にとっては、依存しないということではなく、これはまずいと気づいて自分で動いて、たくさんものものに依存できるようになるという意識と学んだ。

(事務局)

「自立」を今回削除した経緯について、元々ここに孤独孤立を入れようとしていたが分量の関係で削除した。

施策の中で入れようと思っていたが、今の話を参考に追加を検討したい。

(蔭山会長)

「自立」が個人に掲げられる言葉になってしまった。

必要な援助を人に頼むことができるようにすることが大事だが、自立という単語の中にそれが意識されていない。

共存、援助を求める、社会参加とかにしたほうがよいのではないか。

社会参加に自立が入っていると思うかもしれないが、お互いに理解しあううえでは自分で必要なことを頼めることが大事である。

(永井委員)

「自立」と書くと社会に旅立つという意味になってしまう。障がい福祉という側面からみていると一般と違う。

自分の子どもも自立させたいと思うが、一般の人の自立とは違う。少し離れても生活できるようにすることを自立と考えている。

ただ社会参加というよりは、幅広い言葉を入れるほうがよい。

イベントに一日参加するというよりは、継続してできるようにすることが一般向けに必要だと思う。

(谷田委員)

そもそも「自立」という言葉が入った経緯は何なのか。「自立」という言葉が出てくる文脈に見えない。

(事務局)

第3次の際には、障がいや一般も含めて自立と考えていたと思われる。広くとらえるという意味で、共存など分かりやすい言葉を社会参加に加えていきたい。

(村松委員)

高齢者は体力落とすが、身体的自立もある。車いすを利用してやりたいことをやる、というのは社会参加となる。

障がい、高齢の分野で自立の概念が異なる。

ひきこもりでつながっていない人と、つながっているけど意思表示できない人とは違う。

困窮の自立、日常の自立など、さまざまな自立が存在する。

(永井委員)

障がい者自立支援法という法が施行されていた。最初はすべての障がい者が自立するようと思えたが、様々な自立の内容があると分かった。

(蔭山会長)

施策の具体案を出す段階で検討したい。

(事務局)

「誰かと共に生きる」という表現ではどうか。

(蔭山会長)

援助する人との共存で社会参加は成り立つため、そこを取り入れたい。

基本目標2の居場所づくりについて、交流をできる場ということと考えたが、重要なのは出会いの場である。「出会いと交流のまちづくり」としたほうが良いのではないか。

(永井委員)

基本目標1の「参加促進」という言葉について、機会があれば参加したいというのは誰もが思うだろう。日程がそれぞれでなかなか参加できないのでは。

アンケート結果を、たくさんの人が参加したいと考えているととらえるのではなく、それ以前の段階が重要。

30年の間に、福祉サービスを利用して生活を豊かにするという方向性に変わってきた。任意団体に入らなくなってきた。

バーチャル空間の利用。学校の出席も。世の中が進んでいるなかで、ボランティアをしましょうと呼びかける以外の方法はないのか。

(伊藤委員)

娘がボランティアに参加したいと考えているが、どこに行けばよいのかわからない状態になっている。

刈谷社協では学校に対して、こういうボランティアをやっているという広報をしている。

(高橋委員)

知立社協も数は少ないが、社会福祉大会のコサージュづくりなど呼びかけた。

コミュニティスクールが展開するなかで、東小のひがしっこサポーターなどはイベントの時に活動できる。

まだまだ広げていきたいと考えているが、高校生には日程的にも難しいこともある。ボランティアセンターにも働きかけていきたい。

コロナ後、施設には入りにくいですが、高齢者サロンで夏休み期間、学習支援なども周知していきたい。

(村松委員)

ボランティアの探し方について、つながるネットがある。

(伊藤委員)

親が探すというより、子どもが気軽に簡単に探せるようになればと思う。

(永井委員)

昔、知立高校のボランティア部から、パン販売の申し出があった。

今はボランティア部は少なくなっているのか。

(蔭山会長)

市民は学生だけではないので、紹介窓口をいっぱい作らないとつながれないようになってきた。

福祉は、もの、金、人という見える部分だけになってしまいがちではあるが、それらよりは心が一番大事。出会いの場がないと世間が繋がらない。

国の施策でもそうだが、目に見える部分だけになってしまっている。

言われた人誰もが必要な手助けができるように、助けられる側もつい「結構です」と言ってしまうが、助けてくださいと言えるようになったほうが良い。

知立は心を問題にして全面に出してはどうか。

(事務局)

地域福祉の意識という点で反映できればと思う。

参加促進についても、それ以前の段階を考えていきたい。

議事録を送付する際に修正案を送付させていただくため、ご確認、ご意見いただければと思う。

(蔭山会長)

今日の意見を基に修正案を作っていただければと思う。

(全委員)

異議なし。

以 上